

インターバンクの声（2016年9月2日）

先週末にイエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長とフィッシャー副議長が相次いでタカ派的発言をして以来、ドル円は昨夜のニューヨーク市場序盤までに約4円ドル買いが進んだ。昨晚もこのまま米雇用統計の結果を待たずに104円台中盤くらいまでドル買いが進みそうな勢いが感じられたが、思いがけない指標悪化から1円近いドル売り調整があった。ISM（米サプライ管理協会）がニューヨークの午前10時に発表した8月の米製造業景況指数が、景況の拡大・縮小判断の節目となる50を割り込む予想外の数字となり、盛り上がっていたFRBによる早期の利上げ観測が再び大きく後退してしまったためだ。この後、クリーブランド連銀のメスター総裁から、「米労働市場は概ね最大雇用に達しており、FRBは緩やかな軌道上にあるべき」との発言が伝わったが、ドル買いの反応は限定的だった。原油先物相場が供給過剰を懸念材料に大幅続落していたことや、株価の上昇に勢いがなかったことがドル買いを躊躇させていたようだ。先週末以降のドル買い・円売りの流れが続くのかどうか、全ては今夜の米雇用統計の結果に掛かっている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。